

# 那谷寺(石川県小松市)

なたでら

山門(昭和建立)



大飛閣拝殿(重要文化財)/江戸時代



四棟舞台造り



こんな感じ



軒廻り



大悲閣拝殿・唐門(岩窟入口)・本殿(岩窟内)の3つの重要文化財建造物を総称して本殿と呼ぶ



三重塔(重要文化財)/江戸時代













奇岩遊仙境





護摩堂(重要文化財)/江戸時代





鐘樓堂(重要文化財)/江戸時代



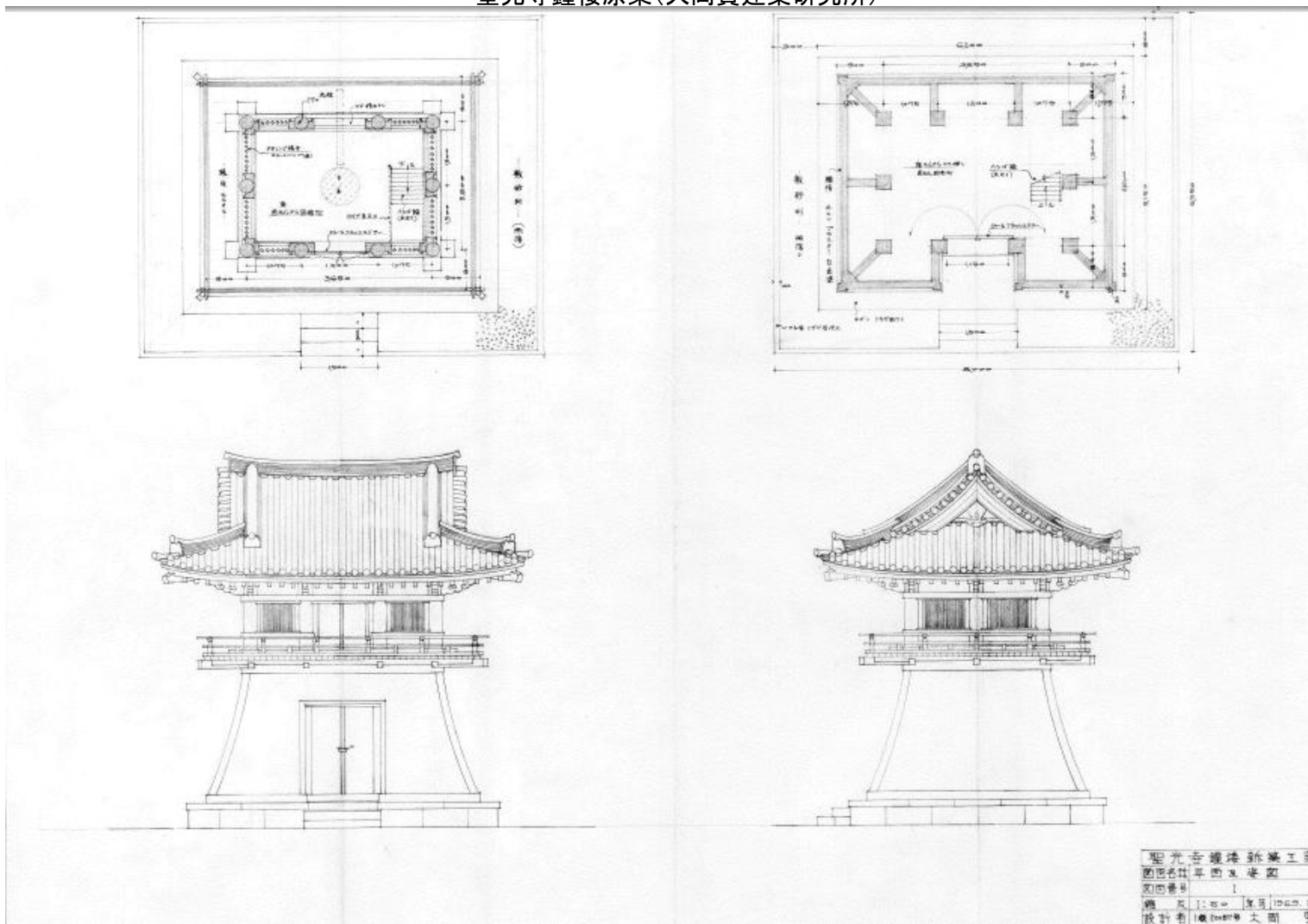


袴腰は石造



(参考)

聖光寺鐘樓原案(大岡實建築研究所)



金堂華王殿/平成二年建立/本体はRC造



芭蕉句碑



トイレであるが屋根には反りもあり、境内全体の雰囲気とうまく溶け込んでいる



白山信仰の寺

観音靈刹  
自生山

# 那谷寺

なたでら

〒九三三〇三三  
石川県小松市那谷町ユ―1111  
☎七六一・六五・二二番(代表)  
FAX〇七六一・六五・二六番



## 那谷寺の由来

那谷寺は白山信仰の寺で、養老元年（七一七）越の大徳泰澄神融禪師によって開創されました。

禪師は夢にみられた十一面千手観世音菩薩のお姿を自らお造りになり、洞窟内に安置し、岩屋の胎内をくぐって、人としての罪を白く清める霊場としました。そして、この地にお堂を建立され、自生山岩屋寺と名づけられました。

その後、寛和二年（九八六）に西国三十三番札所を開かれた花山法皇がこの地に御幸なされし折（おいでになった時）、洞窟内の観音様を拝せられ、わが国には珍しき岩窟“霊夢のお告げにより「これ全く観音妙智力の示現なり、朕が求むる三十三ヶ所は全てこの山にあり」と申され、西国三十三ヶ所第一番紀伊の那智山と、第三十三番美濃の谷汲山の各一字をとって那谷寺と改め、七堂伽藍を御造営なされ、自ら、この地に居を構えられました。

往時は寺院二百五十ヶ坊に及ぶ隆盛を極めました。延元三年（一三三八）南北朝の争い、文明六年（一四七四）一向一揆により坊舎が焼きつくされました。

しかし寛永年間（一六四〇）、加賀藩主前田利常公がその荒廃を嘆き、後水尾天皇の勅命を仰ぎ、岩窟内本殿、拝殿、唐門、三重塔、護摩堂、鐘楼、書院等を再建、境内の一大庭園を復興され今日の御祈願所とされました。

こうして那谷寺は森の中の自然の曼荼羅の寺院として、今も大切に守られています。



①金堂 華王殿

御本尊は十一面千手観音、白山曼荼羅、泰澄神うすう融う禪師、中興花山法皇を安置し、那谷寺の年中仏事祈禱は全てこのお堂で行われています。金堂は六百五十年前に消失したが、再び山岳自然信仰の復興を願って平成二年建立されました。

内拝のご説明

⑤参道

昭和新築の山門をくぐると、ほの暗い参道がつづきます。苔むした庭と椿の並木、江戸時代の石燈籠が歴史を刻み、加賀三代藩主前田利常公が植樹された、小松から那谷寺にいたる御幸街道杉の一部であった古杉が林立します。

⑥奇岩遊仙境

観音浄土補陀落山を思わせるこの天然公園は、現世のパラダイスとして大切にされてきました。太古の噴火の跡と伝えられ、長い年月の間、波に洗われ今日の奇岩が形成されました。

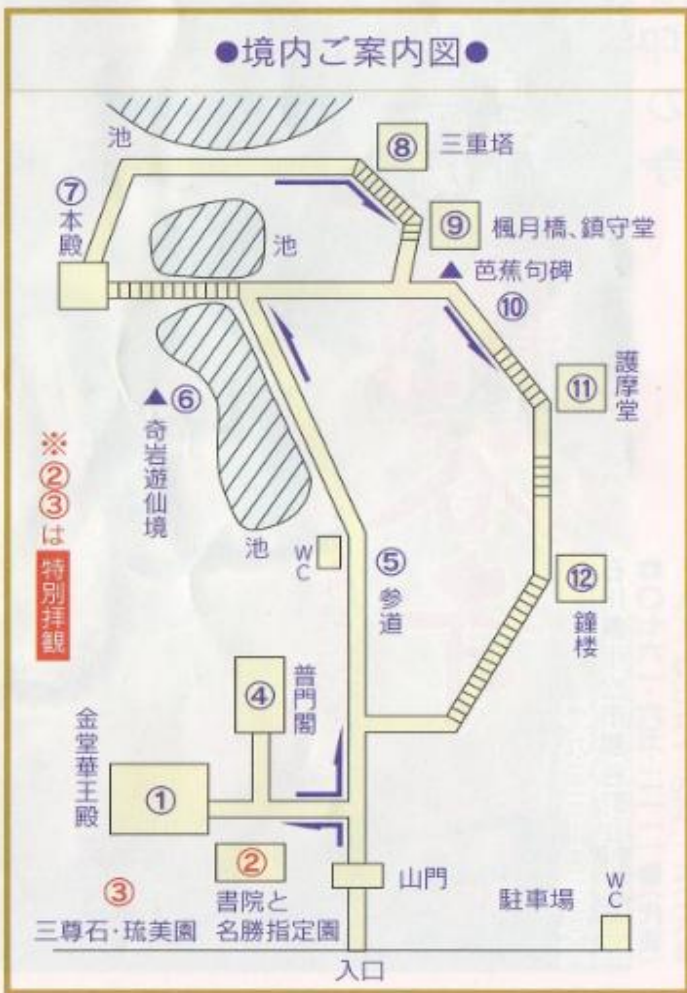
⑦大悲閣拜殿、唐門、本殿 (重要文化財)

観世音菩薩の慈眼視衆生の大悲悲心の御誓願より、大悲閣と名づけられました。

岩窟中復に建てられ、四棟舞台造り、四方欄間に浮き彫りが施され、鹿、鳳凰、鶴、松、竹、梅、橘、紅葉などの花鳥が配されています。

唐門は岩窟入口、本殿は岩窟内にあり、厨子に那谷寺御本尊十一面千手観音菩薩が安置されています。

●境内ご案内図●





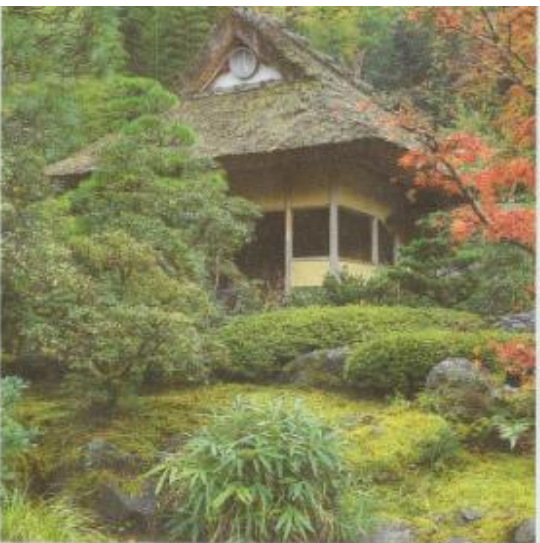
② 庫裡書院（重要文化財）と名勝指定園  
（特別拝観）

寛永十四年改築（二六三七）の建物。利常公自らこの書院に住し、山上善衛門、後藤祐乗等を使って、諸堂の再興にあたったと言われます。玄関は土天井、南面二間は仏間兼対面の間、東には装束の間、北は利常公御成の間です。建物裏には別部卜斉の作（一六四〇）による名勝指定園の寺院茶庭があります。

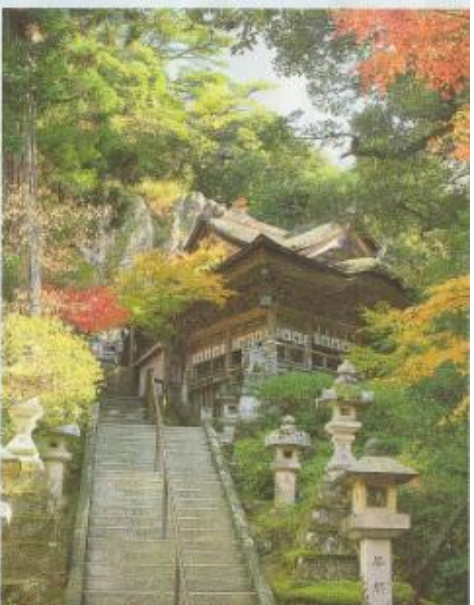


③ 三尊石琉美園（特別拝観）  
（まきとせきりゅうびえん）

阿弥陀三尊のような自然大岩壁を中心に、一面苔におおわれ深山幽谷の神仙境をあらわした庭園です。



ふもみかく



⑧ 三重の塔（重要文化財）

大悲閣西南の山上にあり、方三間三層で、扇垂木を使用。四方の壁面は唐獅子の二十の行態や牡丹の彫刻が施されており、内には、元金堂にあった鎌倉時代の作、胎蔵界大日如来を安置してあります。

⑨ 楓月橋、鎮守堂  
（あけつぎやまのたか）

展望台に至る橋、楓月橋から奇岩遊仙境の眺望は境内で最も美しく、白山妙裡大権現を祀る山上鎮守堂よりの眺望は境内一の絶景です。



⑩ 芭蕉句碑

“石山の 石より白し 秋の風”

元禄二年八月五日、那谷寺を参拝された俳聖芭蕉は、奥の細道の記にこの名句を残しました。

⑪ 護摩堂（重要文化財）

壁面には沈思、柔和、昇天、凝視、観悦、雅戯、問答の八相唐獅子及び牡丹の彫刻があり、内陣には平安時代作の不動明王が安置されています。

ホームページ

<http://www.natadera.com/>



④普門閣 (宝物館) ・休憩所

白山麓春木家を移築。旧新保村に春木家が道場を開き、後、永平寺再建に当たった棟梁が弘化四年(二八四七)、三年の歳月を費やして完成。その雄大さは北陸随一と言われています。

⑫鐘樓堂 (重要文化財)

入母屋造りの和様建築で、袴腰の上まで石造です。内には寛永時代、朝鮮より請来した名鐘を吊るしてあります。